

事業所における自己評価結果(公表)

令和6年3月28日 公表

事業所名 こども発達支援センター のぞみ(児発)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		プレイルームや遊戯室での活動を時間で区切ったり行き来したりし、子ども達にとって心地良く過ごせる時間を工夫している。	・プレイルームが狭く、遊具設定が難しい為、遊具の配置など工夫が必要。 ・活動内容によって、スペースを共有したり、個別で使ったりしている。 ・小グループ制を行っている。
	2 職員の配置数は適切である	○		5~8名のグループに支援員を3~4名を配備している。個別的にゆったりと向き合えるよう考えて人員配置をしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		個々の発達に合わせ、安全に過ごし易い環境にしている。	・利用児に応じ丁寧に支援を継続していく。 ・スロープで遊戯室まで行けるようになっているが、雨の日には難しい。他児が入らないようカギをかけて安全面にも気を付けているが、チェーンロックをかけるのに少し手間取ってしまう。 ・スロープの所に屋根があると良い。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日施設内や送迎バスの清掃と消毒を行っている。	今後も丁寧に清掃、消毒作業を行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が情報共有できるよう、回覧を行っている。どうしたらよりよくなるのか考え、意見が出しあえる雰囲気はあると思う。	もれなく全職員が必要な情報を共有できるようにしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年、行っている。保護者のアンケート意見をいただき、使用後のオムツの持ち帰りを廃止するなど改善に取り組んでいる。	ガイドラインに沿ったものを使用し、改善に努めていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		配布とホームページ掲載を行い、広く皆様にご覧いただけるようにしている。	今後も継続する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画を立て内部研修を行っている。外部研修にもできるだけ多くの職員が参加し、スキルアップにつなげている。研修の機会を設け、情報をプリントして配り、自ら受けてみたいと思う研修に参加している。	内部研修・外部研修を行い、資質向上に努めていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		担当制にして、クラスごとに会議をしている。保護者のニーズをできるだけ把握できるよう電話対応や面談を行っている。計画作成にあたり、一人ひとりのアセスメントシートを用いて、評価を行っている。	訴えの少ない保護者のニーズも把握できるよう努めていく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		新版K式発達検査、K-ABC IIなどのアセスメントツールを使用して、適切に評価を行っている。	色々な職員が検査を実施、まとめ、評価できるようにしていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者のニーズや困り感に応じて多職種で連携して、支援を行うよう努めている。	より丁寧な支援が行えるよう職員一人一人のスキルアップを行っていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員でその時々、子どもの様子を共有し、必要な支援について検討し、行っていくよう努めている。	支援方針について、保護者とより相互で同意できるものになるよう努めていく。(アンケート、質問紙なども用いていく)
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラス職員だけでなく、全職員で話し合っ立案している。	個々に応じた活動を提供できるよう一人一人評価を行っていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		その時の子どものニーズに合った題材を取り入れている。	子どもの姿や状態に応じた活動内容や方法を提供できるよう努めていく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		活動内容や子どもの状況に応じて集団活動と個別活動を取り入れている。 子どもの活動ベースなど特性に合わせて活動を組み立てている。	子どもの活動ニーズや興味関心を引き出しながら、活動プログラムを考えていく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援前日や当日に打ち合わせを行っている。	事前の丁寧な打ち合わせは重要であり、継続して行っていく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		子どもの様子や気づきを職員間で共有している。	出来ない日もあるが、できるだけその日の内に振り返りができるよう時間を確保していく。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必ず、支援終了後には記録し、振り返りを行っている。子どもの状態によっては、夕方保護者に電話確認をする。	毎日の丁寧な振り返りを継続していく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にクラスでモニタリング会議を行っている。	子ども一人一人への支援をチームで深める努力をしていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		その園児の様子がわかる職員が参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携を行っている。	今後も連携を継続してとっていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		リハ見学など必要に応じて行っている。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要に応じた連携を行っている。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じた連携(電話、訪問)を行っている。	今後も継続していく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行時には、文書での連携に加え、訪問や電話などで連携を行っている。 こういう行動があった時にはこういう対応をすればうまくいったといった支援の情報をまとめて伝えている。	今後も必要に応じた連携を行っていく。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		関係機関と連携を行っている。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		今年度移転をし、同法人内の認定こども園が近くにあることもあり、交流する機会を持つことが出来た。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		管理者を中心に参加している。	・地域の子ども、子育て会議がよくわからない職員もいる。周知について課題である。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳で家での様子を共有したり、その日の活動内容や様子を伝えたりしている。	子どもの状態像について、より保護者と共通理解できるよう細やかな情報共有に努めていく。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	家庭での困り感に応じて家庭での支援方法などを提案している。 ここでやってうまくいった対応を伝えており、電話で連絡してお家でも…といった連携はとっている。	今後も保護者との面談の機会を設けていき、具体的な支援策について一緒に考え提案していく。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	利用者負担金は、利用時前と変更時に説明していく。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインの項目記入はしていないが、丁寧に説明するようにしている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の連絡帳や電話、面談で状況を把握し、相談に応じている。	保護者のニーズをより把握できるようにしていく。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の会は無いが、事業所企画での保護者の集いを行い、保護者同士で意見交換をできる場を設けるようにしている。	今年度は2グループに分けて丁寧に実施した。今後は回数を増やしていきたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談を受けたときは、即座に対応し、スタッフで検討が必要な時は、臨時職員会議をして対応している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、お便りを発行している。法人の広報紙を年3回発行している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		入職時に誓約書を交わしている。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		その方に合わせた対応をしていく。 (電話、メール、視覚的に分かりやすくする手紙、翻訳など)	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・地域の行事(お大師さん)に参加させてもらったりと交流はある。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		訓練の様子など具体的な取り組みをお便りなどを通して伝えている。	今後も、必要に応じた訓練や職員研修を行っていく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月1回 避難訓練(水害・火事・防犯・地震・土砂災害)を行っている。	水害・火事・防犯・地震・土砂災害の訓練を継続して行っていく。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		発作に対応出来るよう三原消防署に届け出を行っている。ダイアブなどの座薬を事業所にも保管している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		対応児は必ず医師の指示書を提出してもらっている。給食室や各教室に個別のアレルギー表を分かりやすく提示している。朝礼で給食メニューの確認を行っている。	漏れがないよう全職員に周知徹底していく。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		月に1回ヒヤリハット検証会をしている。共有していないと同じ事例が起こりうるので、なるべく早く共有し、どう対応すればよいかの対策を話し合っている。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会で会議を行い、全職員参加の研修を実施している。定期的に情報共有、ケース検討、セルフチェックなどを行っていく。	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束が必要な児が今はいない。	身体拘束については、正しい理解が必要なため、今後も管理者を中心に研修を行っていく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。